

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690500051
法人名	有限会社 トーカイシステム
事業所名	そよ風ホーム
所在地	富山県氷見市窪 2 0 7 3
自己評価作成日	令和3年4月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年4月26日	評価結果市町村受理日	令和3年5月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「できる力」を知り、続けていただくことで役割のある生活を送っていただきます。体操・歩行・脳トレを取り入れたレクリエーションを楽しく行うことで、認知症の進行を和らげ、日課とすることで日中はベッドより離れて過ごしていただき、昼夜逆転の予防・筋力低下の予防を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は住宅地の穏やかな田園の中に立地している。事業所からは日本海が見渡せ、眺めを楽しむことができる。「自然と笑顔になれる家 ゆっくりゆったり 一人ひとりのリズムを大切に」を理念に掲げ、利用者1人ひとりの生活を尊重し、個々に合った過ごし方を提供している。職員間は信頼関係が結ばれており、チームワーク良く利用者支援を行っている。また、利用者と職員とも良好な関係が築けており、エンドウ豆剥きなどの食事の下準備や梅ジュース作り、草団子作りなどを共同で行っている。経験豊富な職員が多く、柔軟で親密な支援を提供している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然と笑顔になれる家・ゆっくり・ゆったり・一人ひとりのリズムを大切に・・・」を理念として、玄関に掲げ共有を図っています。	法人全体の理念と、グループホーム単体の理念を設定し実践につなげるよう取り組んでいる。事業所玄関に掲げ家族や来客者も目につくよう工夫している。また、パンフレットにも掲載し、外部への発信も心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の理容店に協力していただき、職員がお連れしたりしています。近所の方より花の苗をいただき植え方を教わったり、山菜や野菜をいただいたりしています。	自治会に加入し、地域との交流を心掛けています。事業所周辺に住む職員がおり、地域のイベントや情勢は常日頃より把握し運営に活かしている。近所の方より定期的に山菜や花などを届けていただき活用している。	地域の回覧板を利用したり、広報誌を配布するなど具体的な方法での積極的な地域への発信方法の構築を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市と連携して認知症相談会の開催をしました。氷見市認知症高齢者等地域生活支援ワーキンググループ会議に出席しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さんの様子や取り組み・困っていることなどを話し、思いや意見を聞き役立てています。また身体拘束にならないケアに心がけ取り組んでいる現状を話し報告しています。認知症相談会開催・家族を介護する人を支える“ホッとおしゃべりサロン”などの説明・紹介も行っています。	市職員、民生委員、地域の有識者、利用者家族等が出席し2カ月に1度実施している。現在は感染症対策のため、書面のみ情報交換となっている。会議録は事業所玄関に設置し情報開示に努めている。	事業所運営の把握や理解を求めため、家族への開催案内や結果報告の方法整備を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市と連携して認知症相談会の開催や、市認知症高齢者等地域生活支援ワーキンググループ会議に参加して協力関係を築くように取り組んでいます。コロナウイルス感染予防として介護相談員の訪問はありませんでした。	認知症相談会、地域ケア会議、市認知症高齢者等地域生活支援ワーキンググループ会議に出席し、市担当者や情報共有を行っている。また、運営推進会議にも市担当者を招待し事業所運営の理解を求めている。市と連携した内容は、職員に随時申し送りをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる行為は何時でも確認できるようにしてあり、しないことを原則としていますが、転倒の危険性が高い方はセンサーマットを使用して、ご本人が行きたい所に行くための転倒予防介助としています。ご家族が訪問した時には状況を報告しています。運営推進委員会で身体拘束をしないためのケアについて報告しました。	「身体拘束廃止に関する基本方針」を基に、身体拘束をしないケアを実践している。事業所内にて定期的に身体拘束防止についての研修を実施し、職員一人ひとりの意識の向上、チームとしての意識統一を図っている。	身体拘束をしないケアについての書類の整備を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法を何時でも確認できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われるご家族にはパンフレットを見てもらい紹介しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書とサービス内容を説明するとともに介護員ができること、できないことも説明して同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人の様子や職員のかかわりなどをメールや電話でお知らせし面会に来られた時には様子や気にかかることを報告することで、ご家族の考えを伺い反映するようにしています。	利用者、家族より意見があった際には、事業所日誌や介護記録等に記録、職員間で情報共有し、管理者を中心に早期反映に努めている。家族とは面会時、または電話やメールにて月1回以上は意見交換の場を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りの時や問題が発生したときに相談し、提案を反映させています。	業務の申し送り時や、休憩時に管理者が職員と関わり意見の抽出を行っている。また、必要な場合は管理者と職員との個別面談を行う機会を設けている。抽出した意見は、管理者が中心となり早期に解決するよう心掛けている。	定期的な個別面談を実施するなど、職員一人ひとりの深い部分の意見抽出および把握に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は日々のケア内容を把握して個々の努力や勤務状況を見るようにしています。資格手当を定めて職員の向上を促しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフルームに教材を置き、いつでも読めるようにしています。研修を受ける機会が持てるように配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型情報交換に参加することで、他施設の取り組みを学び、参加できなかった職員にも報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	思いを聞いたり、感じ取ったりしてご家族に相談しながら安心して生活できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に思いを聞き、介護員が出来ること出来ないことを話し、対応の仕方を話し合うようにしています。 また協力していただきたいことがあればお願いしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、面会時に、一番良いサービスは何か・・・を考え、ご家族に他のサービスの紹介を行ったりしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	進んで手伝ってくださる行為は危険がないか見守り、安全な方法で行っていただき、必ず感謝の気持ちを伝えるようにしています。出来ることは、お願いして助けていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や買い物など、出来る範囲で協力をお願いし、ご家族と一緒にご本人を支えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防として面会は窓越し・外より離れて会っていただく程度で施設内での面会はお断りさせていただきました。ご家族の送迎にて受診・理容店・自宅には人混みを避ける注意をしていただき出掛けました。	現在、面会については感染症対策を取った上で可能な限り実施している。また、利用者や家族が希望する受診の際には、家族に付き添ってもらい以前から利用している医療機関の受診を行っている。地域の理美容の利用や、自宅で過ごす時間を設ける等の関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	穏やかに過ごせるように配慮し席替えをしています。 周りの方を気かけ、手を差し伸べてくれたり車いすを押してくれたりする姿がよく見られます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に様子を伺ったりして状態を把握するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話やかかわりの中での表情などから思いを察し、汲み取り、申し送りの時に話し合っています。	利用者との日々の関わりの中で把握した情報は職員間で情報共有を図っている。また、利用者一人ひとりに担当職員を設定し、深い部分の思いや意向の把握に努めている。	利用者の思いや意向を細かく記録するためのマニュアル整備を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に伺ったり、ご本人の会話の中で知り得た情報を記録し、ご家族に確認していき把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ないことより、出来ることを見つけ出来ることを続けていただくようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には、日ごろの係りの中で思いを知り、反映するようにしています。担当職員がモニタリングを行い、介護計画に活かしています。	利用者や家族の意向を踏まえ、管理者が柔軟に介護計画を立案している。利用者一人ひとりに担当職員を設定し、他職員からの情報や日々の利用者の様子を基に話し合いを行い、実際に即した介護計画となるよう心掛けている。	ケアプラン更新に合わせた、アセスメントの実施と書類作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や介護記録に状態を記録し情報を共有し、引継ぎや問題が起きた時には話し合い、介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況を知り、買い物の援助や受診介助など柔軟に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	部屋に入る時は、用件を伝え、了解を得てから入るようにしています。	利用者を尊重した接遇やプライバシー確保に努めており、年2回研修を実施し職員の意識向上を図っている。日々の業務でも管理者が個別で指導し、尊厳をもった支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「温かいのと冷たいのどっちがいい？」など二者択一方法で、出来る限り理解しやすい声がけに配慮して思いを聴いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操は時間を決め日課としています。レクリエーションは何が良いか聞いてから行うようにしています。 お部屋でゆっくりと過ごしていただき、日課となっている体操・レクリエーションに誘うことで筋力の維持と脳トレを目指しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服を話しながら、好みの物を着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜が採れる時期には調理の仕方を利用者さんに教わり、旬の山菜を味わうようにしています。好き嫌いがある方には、代替え品をお出しするようにしています。	管理者が日々の献立をたて、材料は地域のスーパーへ買い物に行っている。また、地域の方からいただく山菜や筍を使用し、季節に合ったメニューを提供している。誕生日やイベント日は赤飯にしたり、おやつでケーキを提供したりと喜んでいただくための企画を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を見て量の調整、刻み食・トロミ剤を使用するなど食べやすい食事を提供しています。水分をとる必要性を伝えつつ、毎食・おやつには好みに応じて白湯・お茶をすすめ、暑い日にはスポーツドリンクを飲んでいただいています。コーヒーを飲む習慣のある方は、お部屋で好きな時に飲めるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口をきれいにする必要性を伝えながら、毎食後に歯磨き・入れ歯洗浄を行っていただき、夕食後は入れ歯洗浄剤に浸け置きして清潔を保っています。口腔内に異常があれば、ご家族に報告し歯科医に受診介助を行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿・便の確認を行い記録することで排泄パターンをつかみ、時間を見てトイレ誘導し、失禁回数を減らすようにしています。	介護記録と排泄表を記録しており、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。寝たきりの利用者や、尿意があいまいで紙おむつを使用した利用者も誘導し、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるように排尿・便の確認を行い記録することで排泄パターンを掴むようにしています。水分(お茶)を摂る大切さを伝え飲んでいただき、体を動かす大切さを伝えて毎日時間を決めて体操に参加していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定の曜日と時間は決めています。体調や希望に応じて臨機応変に対応しています。	基本入浴は週2回としているが、希望や体の状態に合わせて回数を増減し臨機応変に支援している。足腰の不安な利用者にはチェア浴を案内している。使用しているお湯は井戸水のため体が温まる効果がある。また、入浴剤を使用したり、ゆずを浮かべたりと入浴を楽しんでいただく工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好みの明るさに配慮し、エアコンの風が直接当たらないよう気を配り安眠できるようにしています。食後、ベッドで休まれる時はゆっくりと寝ていただき時間を見てリビングに誘うことで夜間の良眠と昼夜逆転の予防をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時には、体調や薬の残りなど報告して主治医の指示に従い服薬管理をしています。薬が変わった場合は、次回の往診日に服薬後の状態を報告するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を知り、今までしていたことや好きなことが出来るように、お手伝いをお願いしたり好きなテレビがあれば一緒に見るように誘ったりしています。梅ジュース作りを行いみんなで味わいました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防として外出を控えるようお願いしましたが、ご家族の送迎で受診・理容店や自宅には人混みを避ける注意をしていただき出かけました。	事業所より花見や公園、果物農園や海岸などへ外出支援を行っている。現在は感染症対策のため制限はあるが、敷地内での日光浴や散歩、ドライブなどに出掛け気分の安定を図っている。また、利用者が家族と自宅で過ごす、地域の理髪店に散髪に行くなどの支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ感染予防として一緒に買い物に出かけることはできませんでしたが、希望があればおやつなど欲しい品を職員が買い届けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話したり、手紙を出すのを手伝ったりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎年、胡蝶蘭が咲き、窓辺の光に照らされています。四季を感じるように季節感のある手作りの壁飾りを飾るようにしています。落ち着いて過ごせる席になるよう配慮し、歩行器や車椅子でも楽に移動できる空間を確保しています。光の調整は利用者さんの要望で調整しています。	共有の空間は、外の光を取り入れ明るい雰囲気となっている。食堂や廊下は開けており、利用者が動きやすいよう広い空間作りに配慮している。また、四季に合わせた花を飾ったり、職員が自作した壁装飾を掲示したりと和やかな環境作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	周りの方が気にかけて手を差し伸べてくれたり、会話を楽しめる席になるよう配慮しています。その時の気分で和室に腰掛けて過ごしている方もいらっしゃいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた座り慣れた椅子やテーブルを置いている方、部屋にボックスやテレビを置いている方、孫の写真・亡くなられたご主人・姉妹の写真を置く等、ご本人やご家族と話し合い工夫しています。	居室にはベッド、エアコン、衣類タンスが完備され、利用者の使い慣れた家具や電化製品等も自由に持ち込んでもらい居心地よく過ごしていただくよう配慮している。また、利用者の生活自立度に合わせ、トイレや洗面台が付属した居室を使用することもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の入口やトイレに手作りの表札を付け、分かりやすいように工夫しています。		

2 目標達成計画

事業所名 そよ風ホーム

作成日： 令和 3年 5月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束をしないケアについての書類の整備が不完全でした。	書類の整備をして、身体拘束を行わないケアを常に目指します。	3か月に1回対策検討委員会を開き、身体拘束を行わないケアが出来ているかを確認・記録し職員全員に周知徹底します。	3ヶ月
2	3	ご家族に運営推進委員会開催のお知らせを行っていませんでした。	運営推進委員会開催のお知らせを行うことで、ご家族の参加者が増えて欲しい。	運営推進委員会開催のお便りを事前に送り、参加をお願いしていきます。	3ヶ月
3	2	地域に積極的な情報発信が少ない。	地域の方に施設の取り組みを知っていただきたい。	広報を作成し地域の方に見ていただけるようにします。	6ヶ月
4	10 9	ケアプランの更新に合わせたアセスメントの実施がなく、書類の流れが理解しにくい。	分かりやすいケアプランづくりを目指します。	ケアプランに合わせてアセスメントを実地し、ご本人の思いを記録しご本人に寄り添ったケアプラン作りをします。	7ヶ月
5	13	災害を想定した食材の備蓄が不十分。	急に襲ってくる災害時に、利用者さんの生活を守ります。	2階に食材、生活必需品を見直し・備蓄し災害に備えます。	3ヶ月
6	7	定期的な個別面談を実施していないため、職員一人ひとりの深い部分の意見を把握出来ていなかった。	職員の思いを知り、より働きやすい職場作りを目指します。	年に1回、職員の個別面談を行い、思いを受け取るようにします。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。